

# グローバル化時代の図書館と歴史資料の保存・活用

山口大学経済学部 教授 李 海 峰

LI, Hai Feng

## I はじめに

平成26年度の「新呼び水プロジェクト」の目的は山口大学の保有している貴重な歴史資料を世界に広げて、国際的な相互利用連携ネットワークの構築のためである。初年度の国際カンファレンスの開催による得られた成果は、どのように今後の山口大学の発展、保有している資料の保存と活用、そして次世代の資産となるように活かしていくべきか、まさに山口大学の200周年記念を迎えての重要な検討課題の一つであると考えられる。

アジア諸国や米国の著名な大学の東亜図書館や研究機関から招聘した専門家や研究者による「国際カンファレンス」<sup>[註]</sup>の講演内容で示されたように、各国の図書館や研究所の歴史資料の保存・利用は世界的な規模で推進されている。歴史資料の永久的な保存とその相互利用の拡大、連携ネットワークの構築などはグローバル化と現代技術によってますます推進されるようになった。

「新呼び水プロジェクト」の目的達成のため、中国・国家歴史博物館や国家図書館、近代歴史研究所など、および米国の著名な大学の一つであるスタンフォード大学 (Stanford University) 図書館の訪問、見学、専門家や研究者との交流を通して、各国の図書館のグローバル化が急進されている現状を垣根に見ることができた。また山口大学の保有している資料は世界的に関心が示され、その国際的な相互利用の拡大も今後期待されている。

## II 歴史資料の保存・活用について

### 1 中国の近代歴史研究所などの訪問・交流

#### 訪問先と訪問目的

中国近代歴史研究所、中国・国家歴史博物館、国家図書館

- 1 新呼び水プロジェクトによる「国際カンファレンス開催」のため、講演者の招聘など
- 2 山口大学の歴史資料遺産のデジタル保存や研究活用の拡大、国際連携相互利用ネットワークの構築など

#### 訪問成果

中国におけるアジアの近代歴史資料の収集や研究、活用などにおいて、どのように国際連携相互利用ネットワークの構築を推進しているのか、中国・国家博物館をはじめ、中国近代歴史研究所、中国・国家図書館、それに北京大学歴史学部などのトップ指導者や専門家などと直接に交流でき、デジタル化や積極的に海外から歴史資料の収集などの状況を見学できた。

そして、中国近代史研究の専門家で知られている王建朗所長を招聘し、講演していただいた（講演会の内容参照<sup>[註]</sup>）。研究者や専門家の訪問、交流を通して、山口大学の保有している歴史資料の国際的な宣伝効果があり、その保存や活用の課題は世界的に関心が示されていることがわかった。この意味で今年度の新呼び水プロジェクトによる「国際カンファレンス」の開催などの一連の訪問交流は山口大学の国際化の推進に大きな貢献となったことを言える。そして、今後も引き続き「国際連携相互利用ネットワーク」の構築に向け

て、中国の研究者や専門家たちから強い期待が寄せられている。

#### 訪問先機関を選定した理由（本プロジェクトとの関係において）

中国の高度経済成長に伴って、各分野における歴史資料の収集や研究などは盛んになってきた。この中でアジア関連資料の保存状況や収集などの「国際連携相互利用ネットワークの構築」などが積極的に急速に推進されている。貴重な歴史資料を保有している山口大学はこれらのアジア国の高水準の研究機関との交流を目指すべきだと考え、選定した。

#### 訪問先機関の特徴（本プロジェクトとの関係において、所蔵資料、デジタル化、デジタル資料国際相互利用の実情）

中国・国家博物館をはじめ、中国近代歴史研究所、中国・国家図書館などのトップ指導者や専門家などとの直接交流を通して、中国における歴史資料の収集は国内、国外において積極的に行われていて、そして先進技術による保存の環境やデジタル化などの保存方法、相互連携のネットワークの構築による閲覧、利用の拡大が推進されている。

#### 訪問先機関と山口大学との連携実績ないし将来的連携可能性（本プロジェクトとの関係において、デジタル資料国際相互利用への道のり、等々）

中国・国家博物館はじめ、中国近代歴史研究所、中国・国家図書館などのトップ指導者や専門家からは、山口大学の保有している貴重な資料に大きな関心が寄せられて、資料保存のデジタル化や国際連携による利用の拡大など全面的に協力することを約束されている。このように山口大学は貴重な歴史資料が保有されていることは、中国の図書館や研究機関などで知られるようになり、活用共有の拡大継続によって、山口大学の国際的な知名

度も向上されることは期待できると考える。

#### 訪問先機関と連携交渉の経緯（本プロジェクトとの関係において、どのような交渉を進めたか、等々）

かつて筆者が中国・对外経済貿易大学で教鞭をとった時代から、よく歴史博物館や国家図書館、北京大学の図書館などで研究教育資料の収集などで利用していた。今年度の新呼び水プロジェクトの目的達成のため、かつての同僚やリीडになった教え子など後輩たちのご協力のもと、これらの関連図書館や研究専門機関と連絡でき、訪問交流できた。そして、山口大学は貴重な歴史資料を保有していることを宣伝したところ、大きな関心が寄せられ、関係者の高水準の講演や提言、交流などを通して、山口大学は貴重な歴史資料の保存はいかに重要な課題となっていることや、そして次世代にたいして大きな責任が背負っていることだと再認識し、積極的に本プロジェクトの実施にむけて努力して、交流を進めてきたのである。

#### 提案

今年度の交流や成果など実績を活かして、山口大学の貴重な歴史資料の相互連携の構築実現、デジタル化の推進、実施の協力関係を発展していくことは世界的に期待されていることであり、本「新呼び水プロジェクト」の継続を提案する。

## 2 米国・スタンフォード大学図書館訪問・交流 訪問目的

- 1 新呼び水プロジェクトによる「国際カンファレンス開催」のため、講演者の招聘など
- 2 山口大学の歴史資料遺産のデジタル保存や研究活用の拡大、国際連携相互利用ネットワークの構築など

#### 訪問成果

スタンフォード大学の East Asia Library や

Hoover Institutionから高水準の講演者二人を招聘し、講演していただいた（講演会の内容参照）。同大学の研究者や専門家の訪問、交流を通して、山口大学の保有している歴史資料の国際的な宣伝効果があり、その保存や活用の課題は世界的に関心が見られることがわかった。そこで、今年度の新呼び水プロジェクトによる「国際カンファレンス」の開催は国際的に大きな貢献となったと言える。そして、今後も引き続き「国際連携相互利用ネットワーク」の構築に向けて、研究者や専門家たちから強い期待が寄せられている。

#### **訪問先機関を選定した理由（本プロジェクトとの関係において）**

アジア関連の資料保存が最も豊富で、世界的に最も多く利用されているのは、世界的に著名なStanford UniversityやHoover Institution, East Asia Library等である。山口大学はこのような高水準の研究機関との交流を目指すべきだと考え、選定した。

#### **訪問先機関の特徴（本プロジェクトとの関係において、所蔵資料、デジタル化、デジタル資料国際相互利用の実情）**

スタンフォード大学は24の図書館がある。その中でHoover研究所の持つアーカイブ資料館や東アジア図書館は、歴史資料が最も豊富で、保存のデジタル化が最も進んでいることは知られている。そして世界各国からの研究者たちに活用されている。

#### **訪問先機関と山口大学との連携実績ないし将来的連携可能性（本プロジェクトとの関係において、デジタル資料国際相互利用への道のり、等々）**

今年度の新呼び水プロジェクトによる国際カンファレンスの開催成果で示されたように、スタンフォード大学からの講演者の山口大学との交流や保有している資料の見学を通して、今後のデジタ

ル化の推進、技術の提供や相互活用連携などを全面的に協力することを約束されている。このように山口大学は貴重な歴史資料が保有されていることは、スタンフォード大学で知られるようになり、今後引き続き協力、資料の活用共有の拡大を通して、山口大学の国際的な知名度も向上されることは期待できると考える。

#### **訪問先機関と連携交渉の経緯（本プロジェクトとの関係において、どのような交渉を進めたか、等々）**

かつて筆者がスタンフォード大学で客員研究員として在籍していたころから、研究資料の検索や活用などの経験を通して、東アジア図書館やHoover研究所の資料の保存とその活用は世界的にいかにも先進であるか知っていたので、関係者や専門家を訪問することができた。そこで、山口大学は貴重な歴史資料を保有していることを宣伝したところ、大きな関心が寄せられたのである。そして、関係者の高水準の講演や提言、交流などを通して、山口大学は貴重な歴史資料の保存はいかに重要な課題となっていることや、そして次世代にたいして大きな責任が背負っていることだと再認識し、積極的にプロジェクトの実施にむけて努力して、交流を進めてきたのである。

#### **提案**

今年度の交流や成果など実績を活かして、世界的に期待されていること（スタンフォード大学の関係者からのプロジェクトの責任者古川先生への信書：引き続き山口大学の貴重な歴史資料の相互連携の構築、デジタル化の推進、実施の協力関係を発展していくことを期待している。）に応えるように、プロジェクトの継続を提案する。

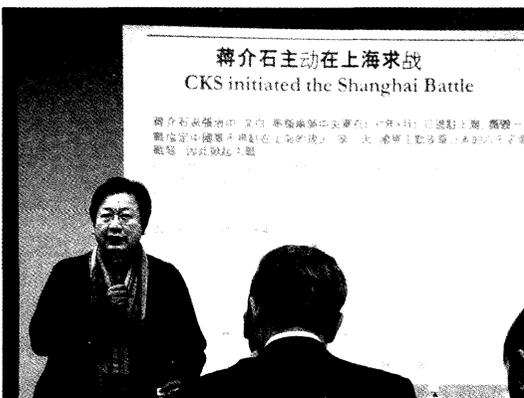
### Ⅲ 講演会：歴史資料の収集・相互利用とデジタル化による保存の課題

中国社会科学院 近代歴史研究所所長 王建朗先生の講演：Data Collection of a Modern History Research Institute, and Joint Use



(講演要旨は古川澄明先生編『平成26年度山口大学「呼び水プロジェクト」報告書』を参照)

米国・スタンフォード大学 Hoover研究所著名研究員, Kuo Tai-chun教授のご講演：Revisiting the 2nd Sino-Japanese War: A Cross-cultural Research Project



(講演要旨は古川澄明先生編『平成26年度山口大学「呼び水プロジェクト」報告書』を参照)

米国・スタンフォード大学 East Asian Library日本資料総責任者 Regan Murphy Kaoのご講演：The Power of Partnerships in International Archives



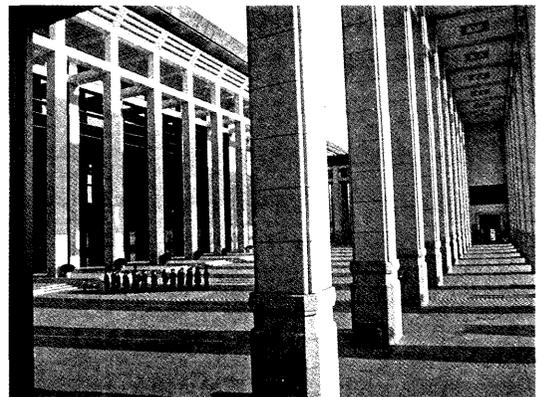
(講演要旨は古川澄明先生編『平成26年度山口大学「呼び水プロジェクト」報告書』を参照)

### Ⅳ 中国におけるデジタル化とその歴史資料の収集と閲覧の拡大

#### 1 近代歴史資料の公開

##### 中国・国家歴史博物館

博物館副館長 王振春さんも山口大学の保有している近代歴史資料に興味を示されたのである。



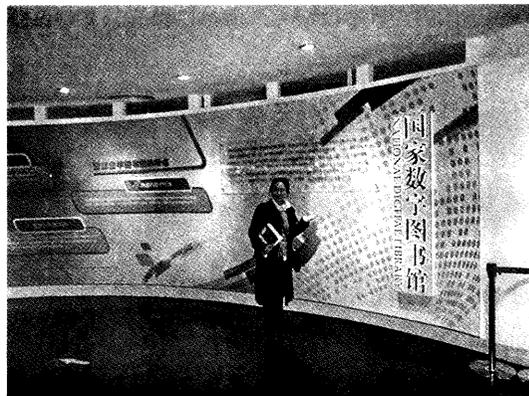
中国・国家博物館

#### 2 中国・国家図書館の歴史資料の収集や活用とデジタル化

中国・国家図書館は北京市中関村にあり、総面積は7.24ヘクタールである。国家図書館は総館南館、総館北館と古書館に分けられている。蔵

書は3,119万冊があり、古書は200万余り冊がある。2008年には国家図書館は建築面積を28万平方メートル増築し、アジア諸国の中でも規模の一番大きい図書館に発展させ、世界で第三位となった。1989年にコンピューターシステムを導入しはじめ、図書館のデジタル化をめざしてきた。1995年からデジタル化建設の計画を実施し、ソフトウェアの開発、データ収集などの現代化が遂げられた。国家図書館は蔵書機関として、3000年前に遡って、甲骨文も保蔵されている。2012年までに中国・国家図書館の蔵書は3,199万冊に達し、この中で、貴重な古書は200万冊も超えたと紹介されている。

中国・国家図書館はデジタル化が急速に推進されている。(写真参照)



デジタル化の図書館



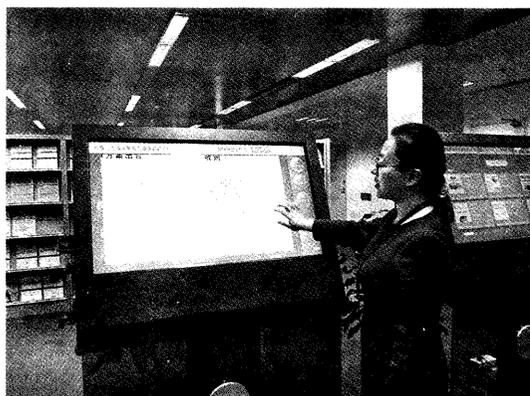
国内外から収集してきた歴史資料倉庫（閲覧室）



国家図書館の文献検索ホール



案内してくれた国家図書館の  
若手図書管理専門家 雷亮さんたち



図書館に設置されたデジタル新聞のコーナー

中国国内だけではなく、海外に保有している歴史資料の収録も重視されている。実際に重要な資料は海外で収集・発見され、近代歴史の再確認の研究に貢献されていることなど、若手の図書専門家が紹介してくれた。

### 3 米国・Stanford大学の図書館

#### Green Library

米国・スタンフォード大学は著名の如く図書館の建築も蔵書、研究資料の保有量も世界的に誇る。24の図書館も巨大なキャンパスに点在し、だれでもIDを登録すれば、自由に中に入って、閲覧も貸し出すこともできる。世界各国から多くの人々が見学や検索、閲覧に訪れている。



Green図書館



Photos, by number: 1. Grand Prix de Spa Grand Touring Race, 1859. Photo: Courtesy Reiss Institute for Automotive Research. 2. Software Carpentry workshop. Photo: Amy Hodge / Stanford Libraries. 3. Musicians playing the gathering at the opening of the East Asia Library. Photo: Steve Costello.

#### Digital Scholarship

Technology continues to bring new approaches to problem solving, data curation, analysis and preservation. Stanford Libraries supports scholars and students engaged in digital discovery; select projects include:

- Faculty Support: Professor John Krosnick approached the Libraries' Geospatial Center to create maps that visually displayed his key findings on climate change. The maps were presented to the U.S. Committee on Energy & Commerce.
- Software Carpentry workshops: Data Management Services hosted workshops designed to teach researchers, largely from the sciences, the latest software skills.
- FRIDA: French Revolution Digital Archive, a ground-breaking website presenting the full text of the *Archives parlementaires* and high resolution images of visual materials from the French Revolution.
- The Reiss Digital Library: A web-based platform that delivers nearly 200,000 digitized images of automotive history and provides tools to facilitate research.
- Stanford Digital Repository (SDR): Faculty, postdocs and students are now self-depositing their theses, articles, research data and code into the SDR for long-term preservation and access.
- SearchWorks: The Libraries' online catalog now surpasses the approaches of commercial catalog platforms for many features and functions including multi-lingual non-Roman searches using Chinese, Japanese and Korean languages.
- Grants: The Andrew W. Mellon Foundation awarded the Libraries over \$1.3 million in multiple grants. They will be used to encourage collaboration and adoption of technical common standards across libraries, archives and museums; to explore the conversion of metadata to linked data; and to define new benchmarking standards for 21st-century libraries.
- CIDR: The Libraries' new Center for Interdisciplinary Digital Research builds on decades of support from the Libraries for computational social science, digital humanities, and related research on campus, setting the stage for future work in these growing fields.

## 東亜図書館 (East Asia Library)

東亜図書館はlathrop図書館の中、三階オープンの書庫がある。書庫の中に多くのコレクションが揃っている。図書館内部はミーティングルームや研究室、自習室および明るい閲覧室などが設けられている。また、大きな展示館はコンピュータのmacとwindowsシステムが付いている。

東亜図書館はスタンフォードのコミュニティ全員向けに開放されているが、実際、スタンフォード大学、フーバー研究所、カリフォルニア大学、カリフォルニア州立大学の教員や学生など研究者向けに貸出しているだけでなく、登録できる世界の訪問学者は誰でも利用・借出することもできるようになっている。

スタンフォード大学のIDを持っている方は図書館内部のシステムを利用して文献の閲覧・収集ができる（貸出の条件を詳しく知りたい方はEAL貸出処の専門スタッフがいつでも対応できるようになっている。なお、スタンフォード大学のホームページも登録したら検索することもできる）。

### The Stanford East Asia Library



The Stanford East Asia Library of Stanford University has been built on the original East Asian Collection of the Hoover Institution on War, Revolution and Peace. The East Asian Collection was formed during World War II and was founded by an interest in research programs in China and Japan during the early 1940s. Over the years, its collection policy emphasized the acquisition of materials, support of the research programs of the Hoover Institution, and a focus on 20th-century history and social movements, and economics.

With the growing demand to support Asian studies across Stanford departments and programs, the Stanford East Asia Library was created in 1996 to design the Hoover Institution and Stanford University Libraries. The East Asia Collection of the Hoover Institution was administratively transferred to the Stanford University Libraries in September 2001 as the Stanford East Asia Library.

Due to the broader research interests of Stanford faculty, the collection scope of the library has expanded since the acquisition. Western language materials in East Asia are selected for and housed in Green Library.

**Lib Collections**

The library has grown from 5,000 volumes at its founding in 1945 to 400,000 volumes today. Currently, the East Asia Library collects about 20,000 monographic volumes and 3,000 serials titles every year. Its deepened holdings in Chinese, Japanese,

Detail of a vibrant collection of the East Asia Library's vast of digital resources housed in the Hoover Institution's Hoover Tower.

Korean music is one of the top ten collections in North America, covering major areas in humanities and social sciences.

The Chinese collection consists of approximately 450,000 monographic volumes, nearly 50,000 sets of serials, and numerous monographic titles in electronic formats. An annually comprehensive set of Chinese 1,200 serials titles include over 100 journals, monographs, and other publications. The collection strengths also include the history of the Chinese Communist Party, Chinese Student Movement (1911-1931), and Chinese Labor Movements (1919-1927). The library's recent acquisitions of major multi-volume sets and special collections have enhanced its strength in the Republican Period (1911-1949) and pre-revolution China history.

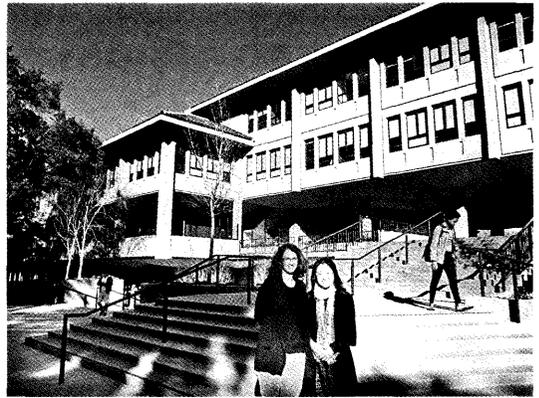
The Japanese collection contains more than 221,000 monographic volumes. The Japanese collections' 1800 serial titles include many early journal serials in the 1870s and their eighteenth-century counterparts of the 1930s and 1940s. Japan's colonial efforts in China are well represented in the Japanese collection. The East Asia Library has substantial holdings in Japanese journals, including the popular journals, newspapers, business histories, and personal diaries.

Since its establishment in September of 2006, the Korean collection has increased to build a comprehensive research collection in the social sciences and humanities. In order to support research

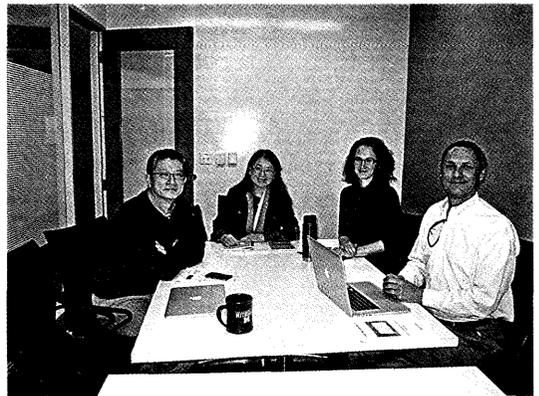
Website: <https://library.stanford.edu/libraries/eal/about>

## 蔵書

図書館の蔵書はできた当時の5千冊から現在の80万冊に増加された。現在、図書館は毎日2万冊の報告書と3千種類の主題季刊が収集されている。図書館は中国語、日本語、韓国語の書籍がたくさん陳列され、人類学や社会学の領域において、北アメリカでは前十位の蔵書の多い図書館となっている。この中で、中国の蔵書館は約400万冊があり、3万のフィルムと電子図書がある。このほか、1万3千種類以上の主題季刊もある。図書館の中で、中国の歴史資料も保存されている。そして近年国民党の歴史資料館は台湾から移動され、展示されるようになった。



東亜図書館 (East Asia Library)



交流会談：スタンフォード大学東亜図書館Yang会長（左）、デジタル技術者スティブ先生（右）、日本図書館主任Regan博士（右2）と筆者・李（中央）

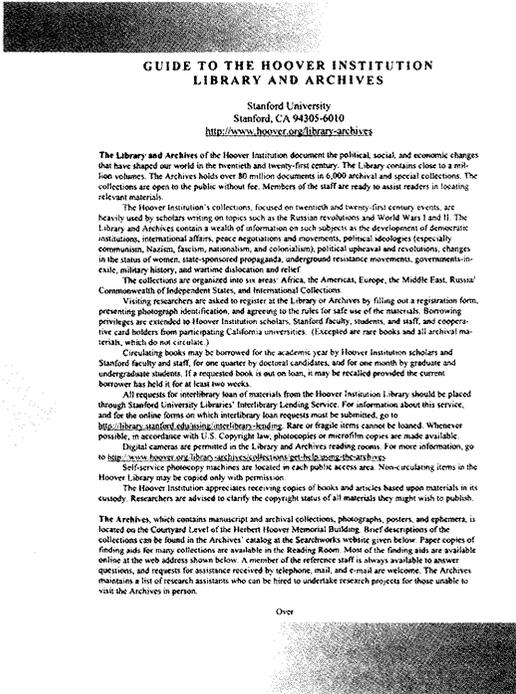
日本の蔵書館は22万7千冊の本が保存されている。日本の蔵書部分は18,000種類の季刊もある。東亜図書館は日本戦後の資料もたくさん収集され、白書、季刊、新聞など、経済発展および個人の日記などもある。

韓国の蔵書館は2005年9月に設立され、韓国社会科学と人類学資料の収集にも力を入れている。2013年8月まで、館内は5万5千冊の本と300種類の季刊が揃っている。

### 電子資源

EALは過去の数十年に電子化が進められてきた。たとえば、中国語文献、漢文書の資料書庫やデジタル図書館、中国の学術期刊など電子データベースでアクセスできる。韓国語は主にKPpiaの電子本、DBpiaとKISSの電子季刊、それに北朝鮮の季刊誌からの記事もある。日本語の資料も電子データベースで検索できる。

### Hoover研究所図書館とアーカイブ



世界各国の資料の保有は最も揃っていることが知られているアーカイブ図書館は、東アジア資料、特に第二次世界大戦に関してのアーカイブ資料の収録や公開によって、世界各国から多くの研究者が閲覧のため訪れている。

### V グローバル化と図書館の進化

1990年代初頭に日本・北海道大学中央図書館で資料検索専用の大型コンピュータで探したい研究資料のリストを入力しますと、その所在がほとんど分かった。中国から日本留学に来ていた筆者の私は初めてIT技術の進歩によってもたらした図書館の先進化に感心していた。この初めての神秘的な経験は当時NKHの留学体験に関する取材に対し「北海道大学での留学生活では一番印象的で感心したことである。」と語っていた。というのは、1980年代後半に中国で日本への留学試験に合格した際、日本の大学に関する紹介資料や研究文献を調べるのに、北京大学の図書館だけではなく中国・国家図書館もカード式の検索方法でさがしていたことが思い出され、「隔世」の感がした。その後、情報技術の革新に伴い、図書館もグローバル化が急速になった。中国は1990年代半ばごろから高度経済成長が世界的に注目されるようになり、図書館の国際化も推進され、国際交流がますます盛んになり、2010年11月に中国・国家図書館はデジタル図書館もスタートした。このように図書館は現代的な図書館の建築だけではなく、図書館の資料収録、閲覧、相互利用ネットワークの構築も進んで、更なるグローバル化と図書館進化が遂げられている。

21世紀はじめ2005年に初めて米国・スタンフォード大学を訪れたとき、最も感心したのは、「伝統」と「現代」の融合による図書館の合理的なシステムである。これはまさに図書館の進化で

あると言えよう。様々な読者のニーズに応え、世界各国の誰でもIDを入力すれば入館し、閲覧や収集などできるようになっていた。

山口大学はアジア、特に東アジアの近代経済産業に関する膨大な歴史資料遺産を保有しており、世界の図書館や大学などの研究機関と緊密な協力関係を構築することができれば、東アジア経済産

業史のデジタル資料の国際連携相互利用ネットワークを通して、グローバル化急進の今日、世界の歴史資料による学術研究に更に貢献できることを確信する。

注) 古川澄明編『平成26年度山口大学「呼び水プロジェクト」報告書、2015年。